

いぐだたみ

No. 165
2011年11月

長崎ゆかりの文学展 第3回企画展

「映画にみる長崎の文学～郷土出身作家を中心に～」終了

県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、年間4回企画展を開催しています。今秋の企画展では「映画」を切り口に、長崎の文学を紹介しました。

本県は美しい自然や独特の歴史と文化を有し、多くの文学作品の舞台となってきました。「悪人(吉田修一)」「まぼろしの邪馬台国(宮崎康平)」「69(村上龍)」「解夏(さだまさし)」「長崎の鐘(永井隆)」等、映画化された「長崎ゆかりの文学」も数多くあります。

映画化された「長崎を舞台とする文学作品」を中心に、本館が所蔵する原作者の直筆資料や著書等を紹介しました。主な直筆展示資料は以下のとおりです。

村上龍氏の色紙……「To 長崎県立長崎図書館様 村上龍 12.Aug.2011」
(初公開)

村上龍氏の原稿……「限りなく透明に近いブルー」の冒頭部分

宮崎康平氏の書簡……失明前に書かれた風木雲太郎氏宛の手紙(初公開)

吉田修一氏の色紙……「長崎県立図書館様 吉田修一」

さだまさし氏の色紙……「長崎図書館さま 幼いころからこの図書館が遊び場でした。ぼくの原点です。」

永井隆氏の署名本……「長崎の鐘」「謹呈 長崎図書館 永井隆」

なかにし礼氏の署名本……「長崎ぶらぶら節」「長崎県立図書館様 なかにし礼」



展示風景



宮崎康平氏の書簡

また、上記のほか、次のような作品資料を展示しました。

- 「鯨神」……………宇能鴻一郎原作
- 「この子を残して」……………永井隆原作
- 「TOMORROW 明日」……………井上光晴原作
- 「八月の狂詩曲」……………村田喜代子原作『鍋の中』
- 「長崎ぶらぶら節」……………なかにし礼原作
- 「精霊流し」……………さだまさし原作
- 「いつか読書する日」……………青木研次脚本
- 「7月24日通りのクリスマス」……………吉田修一原作『7月24日通り』

なお、開催期間中、宮崎康平夫人の宮崎和子氏も来館され、康平氏の直筆書簡等をご覧になりました。

もくじ

- ◎ 長崎ゆかりの文学展第3回企画展…………… P 1
- ◎ 第23回県立長崎図書館講座・市立図書館資料展案内…………… P 2
- ◎ 寄贈雑誌紹介「文豪たちの素顔、横顔、知らぬ顔」…………… P 3
- ◎ レファレンス事例「歌をさがす」…………… P 4
- ◎ 県内図書館散歩「大村市立図書館」…………… P 5
- ◎ 特別寄稿…………… P 5
- ◎ 100周年事業のご案内…………… P 6
- ◎ お知らせ、行事案内…………… P 6



2012年、県立長崎図書館は創立100周年!!

第23回 県立長崎図書館講座

対談「長崎の原爆文学」を開催しました。

長崎ゆかりの文学展第2回企画展「原爆文学展～『ナガサキ』そして『長崎』」に連動した文学講座を7月24日（土）に開催しました。講師に元活水女子大学学長・梅光学院大学教授の奥野政元氏と長崎総合科学大学教授の横手一彦氏をお招きしました。

奥野氏は、広島に比べて長崎の原爆文学が性質を異にする点を取り上げ、永井隆博士の影響を指摘し、今後カトリック信仰に基づいた博士の作品をどのようにして乗り越えていくかを課題として提示されました。特に、石田雅子氏の『雅子斃れず』や秋月辰一郎の『長崎原爆記』を取り上げ、耐えながら浸透していく「長崎の文化の力」は文学においても大きな意味を持つとまとめられました。

また、横手氏は福島原発事故による放射能にも触れ、原爆文学が抱えることになった新たな問題として提起されました。また、被爆によって倒壊した旧浦上天主堂の写真等を示しながら、66年前の現実をしっかりとらえることの重要性を説き、犠牲になった人たちのことを思いながら生きる姿勢が「原爆文学」を生むと語られました。

林京子氏の『長い時間をかけた人間の経験』の6分間にわたる朗読もあり、横手氏は、作品に描かれた人物たちをすくい上げた林作品を改めて高く評価されました。

受講者からは、「長崎の文学を改めてよく読みたいと思いました。詳細な講義で有意義でした。」「新しいことを多く知り得て貴重な時間でした。お二人の講師素晴らしかったです。」等の感想が寄せられ、大変好評でした。



講座風景

市立図書館資料展のご案内

今夏、本館で開催した特別企画展が、市立図書館主催（県立長崎図書館資料提供）で下記のとおり開催されます。是非、お近くの図書館へ足をお運びください。



植木元太郎

明治から昭和初期にかけて島原半島の経済発展に大きな影響を与えた企業家・政治家。安政4(1857)年に現在の雲仙市国見町多比良に生まれ、若くして地域の殖産興業に尽力し、県議会、国会議員を務めた。明治44(1911)年、島原鉄道の営業開始。昭和15(1940)年に初代島原市長となり、政界・経済界に多大な影響を及ぼし、島原のみならず長崎県の発展に大きく貢献した。昭和18(1943)年85才で永眠。

植木家資料とは

植木元太郎が、島原鉄道をはじめ企業・銀行の創設に関わった資料、国会議員・市長としての行政資料、日常雑記や書簡・詠歌などの文化的資料など、2万点を超える膨大な資料。

主な展示品

第1号機関車写真、駅周辺写真、「島原鉄道会社の六難関十幸運」の書
第1号機関車に取り付けられた「惜別感無量」銅板 など



第1号機関車

諫早市立諫早図書館

「島原鉄道をつくった植木元太郎
－植木家資料展－」

12月16日(金)～平成24年1月18日(水)

諫早市立森山図書館

「島原鉄道をつくった植木元太郎
－植木家資料展－」

1月20日(金)～2月12日(日)

雲仙市図書館

文明開化の大恩人 いま、ふるさとへ
「島原鉄道をつくった植木元太郎－植木家資料展－」

2月18日(土)～3月18日(日)

今回は文豪に関する寄贈雑誌についてご紹介します。

その1. 「子規博だより」(季刊)(松山市立子規記念博物館発行)

「坂の上の雲」(司馬遼太郎原作)がテレビドラマ化され俳優の香川照之さんの熱演で評判だった「ノボさん」こと正岡子規(本名は常規一ツネノリ幼名が升一ノボル)。その記念館から送られてくるのが「子規博だより」です。子規をめぐる様々な事柄が対談や論文の形で掲載されており28号～116号の89冊が所蔵されています。(2011年10月現在)114号の特集は「根岸の子規―路地の匂い、町の音(下)」(作家の森まゆみさんによる講演録)明治期の下町風情が子規の言葉による写生で浮かび上がってきます。



その2. 「鷗外」(年2回刊)(森鷗外記念会発行)

「阿部一族」「うたかたの記」「高瀬舟」などの小説の作者森鷗外の研究雑誌がその名もスバリ「鷗外」です。

(15号～89号の74冊所蔵・17号欠)

89号では林尚孝氏による「鷗外の帰国からエリーゼの離日まで『舞姫事件』考(その八)」、山崎一穎氏による「書評六草いちか著『鷗外の恋舞姫エリスの真実』」と小説「舞姫」に関する研究内容が続いています。

はるばるヨーロッパから鷗外を追ってたった一人で日本にやってきたドイツ人女性。いわゆる「舞姫事件」が起きたのが明治21年(1888年。「舞姫」の発表が2年後の1890年です。)彼女をめぐる謎には約120年たった現在も魅力があるということでしょうか。平成24年には生誕150周年を迎える森鷗外と、舞姫エリスの関係がまた少し解き明かされた1冊です。



その3. 「松本清張研究」(年1回刊)(松本清張記念館発行)

「砂の器」や「ゼロの焦点」など事件や謎解きといえばこの人。2年前に生誕100周年を迎えた松本清張の作品は古代から現代へと幅広く時代の謎にせまっています。「松本清張研究」(1巻～12巻所蔵)第11巻のテーマが「『神々の乱心』の背景―未完の遺作を解読する」です。作者の逝去により惜しくも未完に終わった作品のその本当の結末は…? 「松本清張記念館館報34号」と生誕100年記念特別企画展の図録「松本清張最後の小説神々の乱心」を併せて読まれることをおすすめします。



「旧ハワイ王国の国歌を演奏したいのだけど」という問い合わせ

国歌集には現在ある国々の分しか掲載されていません。

楽譜は1冊が1冊の本になっていることは少ないので、楽譜集の中で何に掲載されているのかさがすこととなります。

そんな時に便利なのが、楽譜を検索できるデータベースです。

よく利用するのが、楽譜ネット (<http://www.gakufu.ne.jp/>)

楽譜ネットは書名・曲名・アーティスト等で検索可能です。

「ハワイ 国歌」で検索すると2冊の楽譜集を発見できます。

そのうちの1冊の「ウクレレ・ソロ・ハワイアン名曲選」(ドレミ出版 2007 年刊)

を所蔵していたのでこれを提供できました。

楽譜ネットのほかにも販売楽譜検索のサイトはいくつかありますが、販売されていない古い楽譜の検索は難しいところです。



(桐朋学園大学音楽学部附属図書館)

(国立国会ホームページから転載)

そんな時は音楽系の大学の図書館のサイトが役に立ちます。

そのひとつ、

桐朋学園大学音楽部附属図書館 (<http://www.tohomusic.ac.jp/librarySite/libIndex.html>)

桐朋学園大学音楽部附属図書館の蔵書検索は、楽譜集のほかにも、録音資料・一般図書も検索できます。

「音楽情報をゲット!!」というリンク集も充実しています。

この他に古い唱歌についての問い合わせも時々あります。

教科書などは復刻版も多数出版されていますが、蔵書にない時は

国立国会図書館の近代デジタルライブラリー (<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>) で

古い教科書をそのまま画像でみるすることができます。

『大祭祝日唱歌集』(岡弥吉編明治 25 年発行) をみると君が代が 3 番まであったことがわかります。

シリーズ 県内図書館散歩⑤

— 大村市立図書館 —

大村市立図書館は、大村純毅氏の私立図書館を昭和22年10月に大村市へ移管したのが始まりで、その後、昭和48年8月にJR大村駅近くの現在地に新築移転しました。

定例行事としては、毎週土曜日に、幼児・小学校低学年くらいの子どもたちを対象にした「おはなしの会」を開催しています。

また、毎年11月には、ボランティアのご協力により「としょかんおはなしひろば」を開催して、子どもたちに絵本やおはなしの楽しさを伝えています。



としょかんおはなしひろば風景



大村市立図書館外観

さらに、平成23年度は、11月に『汽笛』（児童文学者の故・長崎源之助氏が復員の際の大村での体験をもとにした作品）の編集者の講演会と『汽笛』の複製原画展を開催し、12月には赤ちゃんから参加できるOMURA室内合奏団アンサンブルのたのしいクリスマス・コンサートを開催する予定です

特別寄稿

今こそ 添い寝の昔話を

長崎女子短期大学 教授 浦川末子 氏



私は今まで子どもの問題は、親や地域の総力で「教え・鍛え」さえすれば予防できるのではないかと考えてきた。しかし、教育論だけでは説明のつかない部分があった。それは、「乳幼児期における親子の信頼」である。「愛される」ことが子どもの心の安定と健やかな育ちにどれだけ大切なものであったかということである。

この1月に公表された国の調査でも、「孤独感」に苦しむ日本の子どもの実態が示された。（子どもの孤立国際比較において、OECD先進20カ国の中で孤独と感じる日本の子どもが群を抜いて高い。）親の前では、元気で素直に振る舞って見せる子どもたちが、実は不安や怒り・悲しみ等不快な感情を心の奥に閉じこめ、言語化できないまま苦しんでいる気持ちが孤独感に結びついているのではないだろうか。親に「抱きしめてもらう愛」こそ百薬の長と言われるが、そ

れ程の即効性はないにしても、他者への理解を深め自己肯定のエネルギーに変えてくれるもの、それは、やはり少年時代の読書であろう。

小学校の頃、私が借りてきた「安寿と厨子王」の本に母は感涙していた。その涙の意味を探して何度も何度も読み返したものだ。そして、徐々に悲しい物語や克服ものを求め「ままならぬ世の中」があることを知っていったのも母の涙の影響だったかもしれない。また、読書は親子が1対1で向き合える最も手軽な愛の示し方である。添い寝して、冷たい足を温めてやりながらの昔話や子守歌はなおいい。肌のぬくもりと一緒に耳の奥の三半器官にその声色を留め「独り占めできた愛」を全身で実感できるからだ。

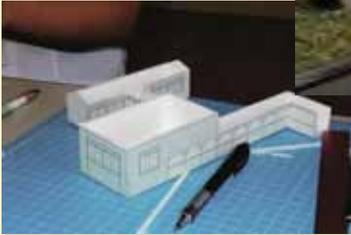
「孤独感」に悩む子どもたちに「本の力」を借りて「愛」を伝えたいものだ。

ただいま製作中!!

長崎工業高等学校インテリア科3年生6名の皆さんが旧館模型製作に取り組んでいます。



夏休みに図書館敷地の測量を行ったり、図面原図からCADを描き、練習模型を製作するなどの過程を経て、本製作完成をめざしています。



〈生徒の感想〉

◆苦勞している点◆

本館…CADで復原図面を書いているが、当時の図面が100%そろっていないので、不足部分は周りから読みとったりしているところが大変。

⇒想像で形を決める部分もある

書庫…本館部分と比較すると図面は存在するが、当時の書庫の写真が少ないため全体のイメージを把握するところが難しい。

トイレ棟…唯一の木造のために、他との製作に違いがあるところ。寄せ棟の屋根をミリ単位であわせるところ。



◆今後の意気込みなど◆

みなさんをあつと言わせるような完成度の高い模型を作りたい。
図書館の方にも県民の方にも喜んでいただけるような模型を作りたい。

まだまだ募集中!!

創立100周年記念事業「思い出の写真・エピソード」

募集期間 ～平成23年12月25日(日)

詳しくは総務課へお問い合わせください。

いよいよ公開!?

利用者の皆さんからお寄せいただいた「思い出の写真・エピソード」も含め、県立図書館の歩みがわかる「写真展」を開催します。

期間 平成24年2月1日(水)～3月25日(日)

場所 2階ロビー

お知らせ・お願い

蔵書の点検・整理等に伴う休館のお知らせ

蔵書の点検・整理及び図書館システムの更新作業のため、下記のとおり休館します。休館中は、本の貸出・調査相談・予約の業務を休止します。

利用者の皆さまにはご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

なお、休館中の本の返却については、本館玄関横の「返却ポスト」をご利用ください。

期間 **蔵書点検整理** 平成23年11月30日(水)～平成23年12月5日(月)

システム更新 平成23年12月26日(月)～平成24年1月10日(火)



催し物のご案内

「長崎ゆかりの文学展」

(県立長崎図書館創立100周年記念事業 第4回企画展)

「収藏品展 県立長崎図書館を訪れた文人たち～平成の芳名録から～」

期間：平成24年1月12日(木)～4月8日(日) 9:30～17:00 (ただし休館日を除く)

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室